

ライオン学校伝書鳩通信

～ また会おうね！～



みんな卒業おめでとう！

この3月に多くの子どもたちが、小学校・中学校を卒業しました。初めて会ったときはほとんどの子どもが低学年でしたが、今ではすっかりお兄さん・お姉さんになっています。今回はそんな子どもたちに卒業のお祝いのメッセージを、卒業しない子どもたちにも激励のメッセージをプレゼントすることにしました。私たち



学生だけでなく、これまでの活動に携わってくれた先生方にもメッセージを書いていただき、その色紙を子どもたち一人ひとりに届けに行きました。色紙を受け取った子どもたちは少しさびしそうに、ちょっと照れくさそうに笑っていました。震災当初なら「なんだよこれー！いらね！」とか言ってどこかに置いたままにしまいか、投げ飛ばしてしまいそうですが、みんなきちんと受け取ってくれました。そういうところにも子どもたちの成長や、ライオン学校のスタッフと子どもたちとの関係の変化を感じました。

また、子どもたちが通う中学校の校長先生もご退任され、ライオン学校もとてもお世話になったということで、みんなで感謝の気持ちとして色紙を書きました。子どもたちは大きな声で「失礼します」と言い校長室に入り、きれいに整列してその色紙とお花を活動の最後にプレゼントしました。

家庭訪問・・・だんだん増えていく子どもたち

3年経っても全く変わらない習性が子どもたちにはあります。それは家庭訪問をしていくとその活動に付いてくるというものです。今回はより多くの子どもたちの顔を見るため、親御さんに定期的な支援を終えることを伝えることを目的に家庭訪問を行うことにしました。最初の子どもの家に行き、今日の支援は家庭訪問だということを伝え



ると予想通り付いていくことになりました。さらに次の家に行こうとしたときもう一人出会い開始 15 分くらいで隊に 2 人が加わりました。家庭訪問の時、みんなはいつにも増して頼りになります。私たちが知らない近道を使って次の家に連れて行ってくれます。学年が全く異なってもみんなライオン学校の友達の家がどこにあるのか知っていて、会うと何気ないことでとても盛り上がっていました。年や性格が全然違う人と話したり、行動したりすることはとても難しく、私たちの世代の多くの人たちが苦手としているように感じます。しかし、ライオン学校の子どもたちはライオン学校というものを通し、自分の外側の人間を排除することなく、関係を築くことができていると再認識することができました。

ばいばい！また会おうね！

私たちが学生だけでライオン学校の活動を行ってきて 3 年が経ちました。ほとんどの子どもたちが震災当初とは異なりとても安定していること、加えて私たちも 4 月から就職や進学など



で環境が変わることから、今回で定期的な支援を終了することが決まっていました。最後の活動・・・何をしよう、どんな風に終わろうと 1 年以上も考えてきました。そして最終的に、「定期的には来なくなるけど、終わりではなく、また来よう！」という結論になりました。今後も子どもたちと連絡を取り続け、子どもたちから SOS があ

ったときや、1 年に 1 回や 2 回は成長した姿を見るため、不定期な支援は続けて行っていきたいと考えています。最近の子どもたちの成長は著しく、みんなを見ていると私たちも負けてられない、次に会うときは成長した姿を見せられるようにがんばらなくちゃ！と思いました。

ライオン学校の生徒からのメッセージ

ライオン学校の中で、いつも私たちのことを気にかけてくれる中学生の男の子がいます。私たちはライオン学校の活動が終わり、子どもたちを見送ると「渡波駅」から電車で仙台に向かうのですが、その男の子は予定がない限り、いつも渡波駅までお見送りに来てくれます。電車が出発するとそれを追いかけてながら手を振ってくれ、その姿にいつも後ろ髪をひかれていました。その子が今回の活動が終わって数日経ったときにメールで感想を送ってくれたので、掲載したいと思います。

この団体に参加することになったのは、2011 年の 7 月初旬のことだったと思います。当時小学 5 年生だった私は、友達の T 君に「ただで富士山に連れて行ってくれるっていう団体があるんだけど、行く？」と言われ、「ただで富士山に行けるなら、行ってみたいなあ」と思い、さっそく T 君と一緒に活動場所へ行ったのが始まりでした。その後、ライオン学校に参加することになり、様々な人や物に出会い、様々な経験をしてきました。

この「ライオン学校」に参加して、一番心に残っている言葉があります。それは、「辛いときは、頑張らない」という言葉です。辛くなったら「自分で何とかしよう」と考えてしまうものですが、どうしても駄目なときは、人を頼ってもいいということです。私はこの団体に参加するまで、学校で人間関係に悩むことがありどうしたらいいのかわからなくなっていました。そんな中ライオン学校に参加したことで、この団体が心の支えとなり、少しずつ「どうしたらいいのか」ということを考える余裕ができました。

これからも困難が立ちはだかることがあると思いますが、この言葉を胸に生きていこうと思います。最後に、E.d.ベンチャーの万石浦支援活動に参加、協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。
(万石浦ライオン学校 R.K)

3 年間で振り返って～スタッフの感想～

私をはじめライオン学校の子どもたちと出会ってからもう 3 年 10 ヶ月になります。もう何度石巻を訪れたかわかりません。その中には正直体力的にきつい時もありましたが、毎回子どもたちに会うことが楽しみでした。特にこの一年は、会うたびに子どもたちがどんどん成長していて、その姿を見るのが一番の楽しみでした。支援をはじめた当初は朝顔を合わすと叩いたり、蹴ったりしてきた子どもたちも今では「おはようございます」とあいさつをするようになったり、去年までは全員が座って話し合いをすることができなかつたのが、円になり子どもたちだけで話し合いを進めることが出来るようになったり、中学生が私より身長が高くなったり、身体的にも精神的にも子どもたちの成長を目にすることが出来ました。大学生だけで支援を継続すると決まったときは自分たちだけでうまくできるかとても不安でした。しかし、うまくできたかどうかはわかりませんが、何よりも継続して会いに行き続けることが大切だったと子どもたちを見ていて確信しています。定期的な支援はこれで終わりになりますが、今後も子どもたちとの連絡は続けて、1 年に何度か会いに行きたいと思っています。今から今度会うときはどのような成長した姿をみせてくれるか楽しみです。(甘利悠貴)

この支援活動に関わって、子どもたちが成長していくためには、側に大人がいることが必要だということを改めて実感しました。これは当たり前のことですが、この当たり前のことがとても難しいことであるということも知りました。子どもの側にいてあげたくても、仕事が忙しいお父さんお母さんや、一人ひとりの子どもとじっくり向き合ってあげたいけれど、なかなか時間のとれない先生もいます。親や教師ではなく、地域の人でもない私たちが側にいて子ども

平成 27 年 4 月 17 日発行

たちの成長を少しでも見守れたということは、意味のあることだったのではないかと思います。子どもたちの成長をそばで見ていると学んだことはもう一つあります。これも当たり前のことですが、子どもが成長していくまでの歩み方は一様ではないということです。出会った時は同級生よりも少し幼いと感じるある男の子がいました。ライオン学校の中でもなかなか輪に入れず、泣いて飛び出して行ってしまうこともよくありました。その子は、1年、2年と経つうちに少しずつ落ち着いていき、他の子どもたちの輪に入れるようになっていきました。そして今回、最後の支援のときには一番の成長を見せてくれ、スタッフ一同を驚かせました。朝、その子を家に迎えに行くと、「おはようございます！」と大きな声であいさつしてくれました。服を着替え、ご飯も食べて迎えが来るのを待っていたそうです。用意していたメッセージカードを渡すと「ありがとうございます」と、両手で受け取って、メッセージを読み始めました。その子は4月から6年生になるのですが、6年生らしい立派な姿を見せてくれました。

自分たちに未熟な面も多く、もっと子どもたちの助けになりたかったけれど上手くできなかったこともたくさんありました。しかし大切にしてきた子どもたちが、いつの間にか私たちのことも大切にしてくれるようになっていてのを感じて、少しは何かをしてあげられたのかなと思えるようになりました。

(今井美里)

東日本大震災から、4年が経ちました。初めて石巻にいったときの景色や匂いを今でも鮮明に覚えています。それは一生忘れないであろう、とても強烈なものでした。ライオン学校を通して出会った子供たちは、当時は低学年の子がほとんどでした。こんな過酷な状況を小さい身体で受け止められるわけがない！そんな気持ちでいっぱいでした。

私はある一人の女の子のことをずっと心にとめていました。彼女と出会うまで、彼女の味方は誰もおらず、震災後の家庭環境の変化もあり、あらゆる場で放置されてきたその子のことを、知れば知るほど胸が痛くなりました。その子の自立こそが私の目標であり、そのために力を尽くしてきました。結果としてその子はいまだ自立出来ていません。しかし、彼女の周りに彼女のことを大切に思ってくれる人を増やすことが出来ました。これまで一人ぼっちだった彼女の周りに寄り添ってくれる大人ができ、彼女はお話するのが上手くなったり、表情が柔らかくなったりと素晴らしい変化をみせました。思うようにいかないことばかりで、彼女のことでも私自身もたくさん悩み、たくさん泣きました。でも彼女の不意に見せる柔らかい笑顔を見るたびに、頑張ってきて良かったと思います。4月から高校生になった彼女はまだまだスタート地点！彼女が少しでも自立できるように、これからもずっと見守っていきたいと思います。

他のライオン学校の子どもたちも「ライオン学校」という集団をとても大切に思ってくれています。その集団は自分たちを大切にしてくれる集団だということを知っているから、大切

平成 27 年 4 月 17 日発行

にしているのだと思います。そんな居場所を 3 年間、変わらず維持できたことが私たちの成果だと思っています。今回の支援が終わった後も、今回クラブ活動で会えなかった子から「次はいつ来るのー？」と早速連絡がありました。もしかすると再会は思っていたよりも早くにあるかもしれません。離れていても相手を大切に思うことや、何かしら出来ることがあります。その思いや行動でどれだけ救われる人がいるのでしょうか。時間が経ち、風化していくものもありますが、ライオン学校を通して築いた子どもたちとの絆はずっとずっと大切にしていきたいと思っています。

(大林沙紀)

自分は、中学校 3 年生の冬の支援からライオン学校に参加しました。初めて石巻の支援に行く時は、子ども達が自分の事を受け入れてくれるかな？という不安を抱えて行きました。万石浦に行ってみると子ども達は、初めて万石浦に行った自分の事をすんなりと受け入れてくれました。それをきっかけに自分は 3 年間の万石浦の支援をすることができました。最初は人のためになんか出来ればという気持ちで始めた万石浦の支援でしたが、その結果自分の成長にも繋がったみたいで周りの大人や友達などからは「すごい人が変わったね」と言われるようになりました。子ども達の為にも自分の為にも 3 年間ライオン学校でやって来て良かったと思っています。自分がしつこく「石巻に連れてけ」と言って始まった万石浦の支援ですが万石浦に連れてってくれた先生や大学生やライオン学校に携わって下さった方達皆さんにとっても感謝しています。ライオン学校はしばらくの間休校になってしまいますがまたなんらかの形でライオン学校が開校する時には、自分も参加出来たらいいなと思っています。3 年間本当にありがとうございました。

(藤原弘輝)

【活動記録】支援メンバー

(2014 年 12 月 27 日) 大林沙紀

(2015 年 3 月 29 日) 甘利悠貴、今井美里、
大林沙紀、藤原弘輝

グループ名：ライオン学校

TEL: 080-6554-8762(代表:今井)

Email: info.lionschool@gmail.com

謝辞

これまで支援のために、多くの方々から寄付を頂きました。本当にありがとうございました。これからも不定期の支援は続けたいと思いますので今後も応援よろしくお願ひします。また、この1年はキリン・子育て公募事業助成により活動を続けることができました。心から公益財団法人キリン福祉財団に感謝します。